

專修寺蔵 『善信聖人親鸞傳繪』 翻刻 並びに 索引

広島大学学校教育学部日本語史研究会

翻字本文 凡例

一、翻字は、複製本『善信聖人親鸞傳繪』（続々日本絵巻大成、伝記・縁起篇1、中央公論社、一九九四年）に基づく。ただし、巻第一の巻頭は、専修寺宝物特別展観によって、原本で確認した（一九九八年四月六日）。また、画中の詞は、翻字の対象としていない。

一、原本の配行・字詰を保ち、訓点・諸符号をも出来るだけ忠実に翻字するよう努めた。しかし、製版の制約上十分でない場合がある。常に複製本と照合されんことを期待する。

一、漢字の字体は、JIS規格で利用できる範囲において通行の康熙字典所載の正字体に従うことを原則とした。ただし、原本の字体のままにしたものがある。

一、平仮名・片仮名の字体は、現行の字体に改めた。

一、漢字に加えられた声点は、漢字の右下に（平）（平整）（上）（去）（入）として示した。

一、虫損・破損は、□で示し、その欠落箇所は残画からの類推あるいは他本に依って（ ）内に補った。

一、本文の振り仮名および左右の注には、後筆と見られるものがある。これは、「」に入れて区別した。

一、本行の。は、原本に存する補入符である。

一、本翻字本文は、佐々木勇・花岡健吾・上野真・児玉拓世・佐藤理絵・寺田守で読み進めた原稿を元に、第一次稿を佐藤理絵が作成し、佐々木勇・佐藤理絵・寺田守・田中哲宙・森田朋子で入力した。

一、製版にあたっては、金水敏氏のホームページ「<http://www.kanji.com/>」による古典籍のコード化のためのマクロ作成¹で公開されているマクロを使わせていただいた。

一、製版のもとのファイル作成には、寺田守提案の方式がとられ、入力の全般に亘って同氏の尽力が大きかった。

- 24 によりて易行の大道におもむ
- 25 かんとなり真宗紹隆の大祖聖人
- 26 ことに宗の淵源をつくし教
- 27 の理致をきわめてこれをのへ
- 28 たまふに立どころに他力攝生の
- 29 旨趣を受得し飽まで凡夫直
- 30 入の真心を決定しまし〜けり
- 31 建仁三年四月五日夜寅時聖
- 32 人夢想告まし〜き彼記云六角堂
- 33 の救世菩薩顔容端嚴の聖僧の形
- 34 を示現して白納の袈裟を着服せ
- 35 しめ廣大の白蓮花に端座して
- 36 善信に告命して言行者宿報設
- 37 女犯我成玉女身被犯一生之間能莊
- 38 嚴臨終引導生極樂文救世菩薩
- 39 善信に言此是我誓願也善信此誓

專修寺藏「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

- 40 願の旨趣を宣説して一切群生に
- 41 きかしむへしと云、尔時善信夢中
- 42 にありながら御堂の正面にして
- 43 東方をみれば峨々たる岳山あり
- 44 その高山に数千万億の有情群
- 45 集せりとみゆそのとき告命
- 46 のことく此文のころをかの山に
- 47 あつまれる有情に對て説きかし
- 48 めをはるとおほえて夢悟了云、倩、
- 49 此記録を披て彼夢想を案する
- 50 にひとへに真宗繁昌の奇瑞念佛
- 51 弘興の表事也然者聖人後時被ニ
- 52 仰云佛教むかし西天より興て經論
- 53 いま東土に傳る是偏に上宮太子
- 54 の廣徳山よりも高く海よりも
- 55 深し吾朝欽明天皇の御宇に

- 一 56 これをわたされしによりて即淨土
- 一 57 の正依經論等此時に來至す儲君（コクシ）
- 一 58 もし厚恩（コウオン）をほとこしたまはすは（アツキオム）
- 一 59 凡愚（ボング）いかてか弘誓（コウゼイ）にあふ事を得
- 一 60 ん救世菩薩（クセセボサツ）は即儲君（コクシ）の本地（ホンチ）なれば
- 一 61 垂迹（スイジキ）興法（コウホフ）の願（クワン）をあらわさんかた
- 一 62 めに本地（ホンチ）の尊容（ソウリョウ）をしめすとこる也
- 一 63 抑（ソム）、又大師聖人（オウシニョウニクワシヤク）もし流刑（ルケイ）に（クウ）
- 一 64 處（シヨ）せられたまはすはわれまた配所（ハイシヨ）
- 一 65 に赴（オモム）かんやもしわれ配所（ハイシヨ）におも
- 一 66 むかすは何由（ナニヨリ）か邊鄙（ヘンビ）の群類（グンレイ）を化せん
- 一 67 これなを師教（シカウ）の恩致（オンチ）なり大師聖人（オウシニョウニクワシヤク）
- 一 68 すなわち勢至（セイシ）の化身（クワンシ）太子（タウシ）又觀音（クワンオン）の（オム）
- 一 69 垂（シヤク）迹（シヤク）なりこのゆへにわれ二菩薩（ニボサツ）の（オム）
- 一 70 引導（インドウ）に順（ジュン）て如來（ニライ）の本願（ホンクワン）をひろむ
- 一 71 るにあり真宗因（シンシュニョウ）ニ茲（ココニ）興（キヨウ）し念佛（ネンブツ）由（ヨリ）ニ斯（ココニ）

- 一 72 煽（フキ）なり是（コレ）併（ニヒ）聖者（シヤウジャ）の教誨（ケウケイ）によりて
- 一 73 更（マシ）愚昧（ニクマイ）の今案（イマアン）をかまへす彼（カ）ニ二大士（ニダイシ）
- 一 74 の重願（チウクワン）唯一佛名（イツフツミヤウ）を専念（センネン）するにた
- 一 75 れり今（イマ）の行者（キヤウシヤ）錯（サマシ）て脇士（ワキシ）に仕（ツカフル）ことな
- 一 76 かれ直（オキ）に本佛（ホンフツ）を仰（アウク）へしと云（イ）、かる
- 一 77 かゆへに聖人（シヤウジン）傍（カハラ）に皇太子（クワウタイシ）を崇（アガム）
- 一 78 たまふ蓋斯佛法（ケクシニホフ）弘通（コウツウ）の浩（オホイ）なる恩（オン）
- 一 79 を謝（シヤ）せんかためなり

〔卷二〕

- 一 1 黒谷（クロタニ）の先徳（セントク）源（ゲン）在（シ）世（セ）のむかし矜哀（コウアイ）
- 一 2 の餘（ア）或時（アリトキ）は恩許（オンキヨ）を蒙（カガリ）て製作（セイサク）を（シヤク）
- 一 3 見寫（ケンシヤ）し或時（アリトキ）は眞筆（シンヒツ）を降（クダシ）て名ヤウ
- 一 4 を書賜（カキタマハル）すなわち願淨（クワンジヤウ）土方便（ドホウベン）化身（クワンシ）土文（ドモン）
- 一 5 類（ルイ）六（ロク）云（イ）、然（シカドモ）愚禿（ニクダツ）釋（シヤク）辯（ベン）建（ケン）仁（ニ）辛酉（シンウ）曆（レキ）
- 一 6 棄（クシ）二（ニ）維行（イキヤウ）一（イツ）分歸（フンキ）二（ニ）本願（ホンクワン）一（イツ）元久（ゲンキウ）乙丑（イツウ）歲蒙（サイモウ）二（ニ）恩恕（オンシヨ）一（イツ）分書（フンショ）二（ニ）選（セン）

- 7 擇チヤク一同年初夏月中旬第四日選擇セリ本願ホクワ念佛ノボトチ
- 8 集シツ内題ナイチ字ジ并ナラ南無阿弥陀佛ナムアミトフツ往生ウシヤウ之業念ノゴフ佛ブツ
- 9 爲ス本ホ二与ニ釋シヤク綽チャク空クウ以モテ空真筆クウシンヒツ令シム三書カ二之ノ一ヒト同ト日空ニツ
- 10 之真影ノシンエイ申マウ預ゾ奉ホウ圖畫ツヅクワシ一ヒト同ト二年閏七月下旬ニネンニツクノキツノ
- 11 第九日真影クイニチシンエイ銘メイ以シテ真筆シンヒツ令シム二書カ南無阿弥陀ナムアミタ
- 12 佛ブツ与ニ若ニ我ガ成シヤク佛ブツ十方衆生フツバウシヤウシヤウシヤウ稱カ我ガ名ナ号ガク下シテ十ジウ
- 13 聲シヤウ若不ニ生シヤク者ニ不レ取フ正覺シヤク彼佛ニ今イマ現在ニ成シヤク佛ブツ
- 14 當知タカ本誓ホカ重願ヘイ不レ虛ク衆生シヤウ稱念シヤク必キ得ベシ往イ生ニ之ヲ
- 15 真文シンモン又マタ依ヨリ夢告ユメノツケ改カ二綽空字ニツツクノ一ヒト同ト日以ニ御筆ミテ令シム三書カ
- 16 名ナ之ノ字ジ一ヒト了リ本師ホンシ聖人シヤク今年七月旬三御歲コノトシニサムイササナリ也ナリ
- 17 選擇セリ本願ホクワ念佛ノボトチ集シツ者ノ依ヨリ二禪定ニゼンテイ一ヒト博陸ツキノ月輪ノ殿ノ釋シヤク實ジツ
- 18 之教命ノカウイニ一ヒト所シムル三令ニ撰集ゼンシツ一ヒト也ナリ真宗シンシユ之簡要ノカンヨウ念ニ佛ノ之ヲ
- 19 奥義アウキ攝シヤク三サン在于ニ斯レ一ヒト見者ミルモノ易ニ論ロ一ヒト誠マコト是ニ希有ニ最サイ
- 20 勝シヨウ之華文ノクワモン無ク上ニ甚深シヤクシム之寶典ノホウケン也ナリ涉シヤク二年ニニシヤク一ヒト涉シヤク二日ニニヒ
- 21 蒙カウ其教誨ノクワクワ之人ノヒト雖モト二千萬ニヒトイヘトモイセ一ヒト云ク三親ニシヤク一ヒト云ク三疎ニシヤク獲ト此ノ

- 22 見寫ケンシヤウ一之徒トモカラス甚タ以テ難シカ爾ニ既書シヨシ一寫製作シヤク一圖ツク二畫シテ
- 23 真影シンエイ一是專念コレセシム正業シヤク之德ノトク也是ナリ決定ケツギ往生ウシヤウ
- 24 之徴ノシヅメ也ナリ抑オボ悲喜ヒキキ之淚ノナミダ一註チウ二由來ユライ之縁ノエツ一ヒト云ク
- 25 おほよそ源空ゲンクウ聖人在生セイジンニシヤク之古イニ他方ニ
- 26 往生ウシヤウ之旨ノメシをひろめたまひしに世ヨあ
- 27 まねくこれに挙人コジリことくくこ
- 28 れに歸キ紫シ禁キン青セイ宮キウ一政マツリを重コトする
- 29 砌キにも先マツ黃金樹林ワウジンジュリン之萼ノハナフサにころろ
- 30 をかけ三サン平ヘイ懸ケン槐クワイ一ヒト九ク平ヘイ懸ケン棘コク一ヒトの道ノミチを正シヤクする家ノ
- 31 にも直チキ四十八願シヨウハチハチクワンの月ノツキをもてあそぶ
- 32 如シカ之ノ戎ニ平ヘイ懸ケン狄テク一ヒトのともから黎ライ一ヒト民ミン一ヒトのたくひこ
- 33 れをあふきこれをたふとひすといふ
- 34 ことなし貴賤クキセン轅ウチをめぐらし門前カドマエ
- 35 市チをなす常隨シヤウズイ呢近ニシヤク之ノ繼ツグ徒トそのかす
- 36 あり都トて三百八十余人ソウハチジュウニヒトと云クしかあ

專修寺藏「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

- 二 37 りといへとも 親マノアクリその化を受ウケ懃ケムその
- 二 38 誨オシヘを 守マケル族ヤカラはなはたまれなり 善信ゼンシン或アル
- 二 39 時トキ申たまはく予ヨ難行道ナニキヤウクウを 聞サシて
- 二 40 易行道イキヤウクウにうつり 聖道門セイダウモンを 通トケレて
- 二 41 淨土門ジヤクドモンに入イリじより 以来イライ芳命ホウメイを かう
- 二 42 ふるにあらすよりは 豈アニ出離シュツリ解脱ゲツト
- 二 43 の良因ラクイを 蓄タカハ哉喜ヤキの中ナカの 悦何エツカニ事コト
- 二 44 か如ニ之コト一ニしかあるに 同室ドウシツの 好ヨシを 結ムスてとも
- 二 45 に一師イチシの 誨オシヘを あふくともから これお
- 二 46 ほしといへとも 眞實シンジツに 報ホウ土得生トトシヤウの
- 二 47 信心シンシンを 成シヤウしたらむ 事自他ジヤクを なし
- 二 48 くしりかたし 故カヘに 且カは 當來タウライの 親友シンユウ
- 二 49 たる 程ホトを もしり 且カは 浮生フシヤウの 思出オモヒ
- 二 50 ともし 侍ベらんか ために 御弟子ミヂシ參集サンシツの
- 二 51 砌ミキリにして 出言シュツゴンつかうまつりて 面々メンメンの 意イ
- 二 52 趣シユを 試コと思ふ 所望ショウボウありと云々クニ、 大師タイシ
- 二 53 聖人シヤウジン云ク此条コノテウ尤モトモト可シ然シ一ニ即明シカレ日人ニチヒト々々キクク來臨ライリン
- 二 54 の時トキおほせられいたすへしと 而シカレ翌日ニヨクシ
- 二 55 集會シユフエのところに 聖人シヤウジンの たまはく
- 二 56 今日ケフは 信不退シンブツの 御座ミザを 兩方リウハウに
- 二 57 わかたるへきなり 何イレの 座ザにつきたま
- 二 58 ふへしともおのく 示給シメタマヘと 其時シトキ三百余ソウヨ
- 二 59 人ニジの 門侶モンリョみな 其意ソノイを得ウケざる 氣キあ
- 二 60 り于ニ時トキ一ニ法印ホフイン和尚ワウ位イ聖覺セイカク并ニ釋シヤク信空シンクウ 信空ホフレン 釋シヤク上人ジョウジン
- 二 61 信不退シンブツの 御座ミザに 可ケン着ツクと云々クニ、 次ツギに 沙弥シャミ
- 二 62 法力ホフリキ 遲參チサンして 申マフシテ云ク善信ゼンシン聖人シヤウジン 入道ニョウドウ
- 二 63 御執筆ミシツビ何事ニニギ哉ヤと 善信ゼンシン聖人シヤウジンの たまはく
- 二 64 信不退シンブツの 座ザを わけらるゝ也
- 二 65 と 法力ホフリキ房申ホウシ云ク然者シカレハ法力ホフリキもるへからす
- 二 66 信不退シンブツの 座ザに まいるへしと云々クニ、 仍マ
- 二 67 これを 書載カキセたまふこゝに 數百人シユヒヤクニンの

- 二68 門徒群居すといへともさらに一言を
- 二69 のふる人なし是 恐は自力の迷心
- 二70 に拘て金剛の真信に昏かいたすと
- 二71 ころか人みな無音のあひた執筆
- 二72 上人 親自名をのせたまふ良しは
- 二73 らくありて大師聖人被ニ仰ニ云源空も
- 二74 信不退の座につらなり侍るへし
- 二75 とこのとき門葉或は屈敬の氣
- 二76 をあらはし或は鬱悔のいろを
- 二77 ふくめり
- 二78 聖人 親のたまはくいにしへ
- 二79 我大師聖人の御前に 聖信房勢観
- 二80 房念佛房已下人々おほかりし
- 二81 時はかりなき 諍論をし侍る事
- 二82 ありきそのゆへは 聖人の御信心と
- 二83 善信か信心といさゝかもかはるとこ

- 二84 ろあるへからすたゝひとつなりと申
- 二85 たりしにこの人々とかめて云善信
- 二86 房の聖人の御信心とわか信心とひと
- 二87 しと申さるゝこといはれなしいか
- 二88 てかひとしかるへきと善信申云などか
- 二89 ひとしと申さるゝへきそのゆへは
- 二90 深智博覽にひとしからんとも申さ
- 二91 はこそまことにおほけなくもあら
- 二92 め往生の信心にいたりては一たひ他力
- 二93 信心のことはりを 承しよりこのかた
- 二94 またくわたくしなしかれば 聖人の
- 二95 御信心も他力よりたまはらせたまふ
- 二96 善信か信心も他力也 故にひとしくし
- 二97 てかはるところなしと申也と申侍
- 二98 りしところに大師聖人まさしく
- 二99 被ニ仰ニ云信心のかはると申は自力の信

- 100 にとりてのことなりすなわち智慧各別
- 101 なるゆへに信又各別也他力の信心
- 102 は善惡の凡夫ともに佛のかたよりのた
- 103 まはる信心なれば源空か信心も善信
- 104 房の信心もさらにかはるへからすた
- 105 一なりわかかしこくて信するにあらす
- 106 信心のかはりあふておはしまさん
- 107 はわかまいらむ淨土へはよもまいらせた
- 108 まはしよくこころえらるへき事
- 109 なりと云こゝに面舌を巻口を閉て
- 110 やみにけり

〔卷三〕

- 三1 淨土宗興行によりて聖道門廢退
- 三2 す是空師の所爲なりとて忽罪科せ
- 三3 らるへきよし南北の碩才鬱申けり

- 三4 顯淨土方便化身土文類六云竊以聖道諸教行
- 三5 證久廢淨土真宗證道今盛然諸寺釋門昏
- 三6 教二分不知真假門戶洛都儒林迷行一分無辯邪
- 三7 正道路斯以興福寺學徒奏達太上天皇
- 三8 諱藤原成 今上一ツツカトノキト 聖曆 承元 丁卯歲
號二後鳥羽院一 土御門院一
- 三9 旬之候 主上臣下背法違義成二忿一結二怨二因二
- 三10 茲一真宗興隆太祖源空法師并門徒數輩不三
- 三11 考二罪科一 猥 坐三死罪一或 改二僧儀一 賜二姓名一
處二 遠流一
- 三12 予其一也尔者已非レ僧非レ俗是故以三禿字一爲二姓一
- 三13 空師并弟子等坐三諸方邊州一經二五年之居緒一
- 三14 云云空聖人罪名藤井元彦配所土佐國 多ク辯
- 三15 上人罪名藤井善信配所越後國此外的
- 三16 門徒死罪流罪みな略ニ之一 皇帝 諱爲仁 號二
佐渡院一

- 三17 聖代建曆 辛 未歳子月中旬第七日中納言範光
- 三18 郷をもちて勅免此時上人右のごとく
- 三19 禿字を「カ」書て奏聞し給ふに
- 三20 陛下歡感をくたし侍臣おほきに保
- 三21 美す勅免ありといへともかしこに
- 三22 化を施さんためになをしはらく在
- 三23 國し給けり

〔卷四〕

- 四1 聖人越後國より常陸國に越て笠間
- 四2 郡稻田郷と云ところに隱居したまふ
- 四3 幽栖を占といへとも貴賤を尋蓬戸
- 四4 を閉といへとも貴賤に溢佛法弘通
- 四5 の本懐こゝに成就し衆生利益の宿念
- 四6 たちまちに満足す此時聖人被三仰

- 四7 云救世菩薩の告命をうけし往夢
- 四8 既今与符合せりと
- 四9 聖人常陸國にして一向專修の
- 四10 義をひろめたまふにおほよそ疑謗
- 四11 の輩は少信順の族は多し而一人
- 四12 の僧ありて動は佛法に怨を成
- 四13 つゝ結局害心を挿て聖人を時うか
- 四14 いたてまつる聖人板敷山と云深山を
- 四15 恒に往反したまひけるに彼山
- 四16 にして度々相待といへとも更其節
- 四17 をとけすつらゝ事の參差を案に
- 四18 頗奇特の思あり仍聖人に謁せん
- 四19 とおもふ心付て禅室に行て尋申
- 四20 に聖人左右なく出會たまひにけり
- 四21 すなわち尊顔にむかふに害心忽に

四22 消滅して剩後悔の涙禁かたし良

四23 覽ありて有のまゝに日者の宿鬱

四24 を述すといへとも聖人またおとろけ

四25 るいろなし立ところに弓箭を

四26 切刀杖を捨頭巾を取柿衣を改めて

四27 佛教に歸しつゝ終に素懷を遂き不

四28 思議なりし事也すなわち明法房

四29 是也聖人つけ給き

四30 聖人東関の堺を出て花城の路に

四31 赴まし／＼けり或日晚陰に及て箱根

四32 の陰阻にかゝりつゝ遥行客の蹤を送

四33 て漸人屋の樞に近に夜もすてに

四34 曉更にをよむて月もはや孤嶺に

四35 かたふきぬ于三時聖人あゆみよりつゝ案内

四36 し給ふにまことに齡傾たる翁のうる

四37 はしくしやうそきたるかいとこととく

四38 出會て云やう社廟ちかき所のならひ

四39 とももの夙夜あそひし侍るにおきなも

四40 ましわりつるかいさゝか寄む侍ると思

四41 ほどに夢にもあらずうつゝにもあら

四42 て權現被ニ仰云只今我尊敬をいたすへき

四43 客人此路を過給へきことあり必懸

四44 懃の忠節を抽て殊丁寧の饗應を

四45 儲へしと示現いまた覺終さるに貴

四46 僧忽として影嚮したまへり何

四47 たゝ人にましまさん神勅是炳焉

四48 なり感應最恭敬すと云て尊重屢請

四49 したてまつりてさま／＼に飯食を粧

四50 いろ／＼に珍味を調けり

四51 聖人古郷に歸て往事をおもふに

四52 年々歳々夢のことし幻のことし

- 四85 垂迹スイシヤクをとむる本意ホンイたゝ結縁ケチヅメの
- 四86 群類グンレイをして願海ガンカイに引インせんとなり
- 四87 しかあれば本地ホンチの誓願セイガンを信シンして一
- 四88 向カウに念佛ニホフをことゝせむセム輩ハヤ公務コウムにも
- 四89 したかひ領主リヤウシュにも駈仕カシてその靈地レイヂ
- 四90 を踏フミその社廟シヤウに詣ケイせん事更サタに
- 四91 自心ジシンの發起ホチキするところにあらず然者シヤカハ
(以下欠)

〔卷五〕

- 五1 聖人シヤウニン弘長コウチャウ二年ニネン戌申ウチノチ仲冬チュウトウ下旬ゲンジンの候コトよりい
- 五2 さゝか不例フレイの氣キまします自ヨリニ尔ニ此来口ココカラクチに
- 五3 世事セジをましへすたゝ佛恩フツオンのふかきこ
- 五4 とをのふ聲コエに餘言ヨゴンをあらわさすも
- 五5 はら 稱名シヨウメイたふることなし而シカル 同第八日トウハチノヒ
時トキ
- 五6 頭北面ツボク西右脇サイウワキに臥フシしたまひてつゝめに

- 五7 念佛ニホフの氣キたへをはりぬ于ニ三時サンジ一類イツレイ齡レイ九
- 五8 旬ジュンに満ミチたまふ禪房ゼンポウは長安チャウアン馮翊フョウキの邊ヘ
- 五9 万マン里リ小路コウジ南ナンなればはるかに河東カトウの路ミチを曆レキ
- 五10 て洛陽ラクヤウ東山トウサンの西麓セイロク鳥部野トウボノの南邊ナンペン延
- 五11 仁寺ニシに葬サウしたてまつる遺骨イコチを拾ヒロイて
- 五12 同ドウ山麓サンロク鳥部野トウボノの北邊キタペン大谷オホニにこれをお
- 五13 さめをはりぬ而シカニ終焉シュウエンにあふ門弟モンテイ勸化カンカ
- 五14 をうけし老若ラウニヤクをのく在世サイセのいにしへ
- 五15 を思滅オモヒメツ後のいまを悲カナシムて恋慕レンボ涕泣テイキツせすと
- 五16 いふことなし
- 五17 文永ブンエイ九年クニノ甲冬ケイトウ比ヒ東山トウサン西麓セイロク鳥部野トウボノの北大
- 五18 谷タニの憤慕フンボをあらためて同麓トウロクよりなを
- 五19 西吉水セイキスイの北邊キタペンに遺骨イコチを堀渡ホリワタシて佛閣フツカク
- 五20 を立影像タチエウザウを安ヤスす此時ココロに當アタリて聖人シヤウニン相
- 五21 傳デンの宗義シュウギいよく興コウし遺訓イイジンますく
- 五22 盛サカリこと頗スゴク在世サイセの昔ムカシに超トヘたりすへて

- 五23 門葉國郡に充満し末流處々に遍布
- 五24 して幾千一萬といふことをしらす其
- 五25 稟教を重して彼報謝を抽る輩縉
- 五26 素老少面々あゆみを運て年々
- 五27 廟堂に詣す凡聖人在生の間奇特こ
- 五28 れおほしといへとも羅縷に不違仍
- 五29 しかしなからこれを略するところ
- 五30 なり
- 五31 右縁起畫圖之志偏爲知恩報德
- 五32 不爲戲論狂言刺又馳紫毫拾翰林
- 五33 其昧尤拙其詞是苟付冥付顯有
- 五34 痛有恥雖然只憑後見賢者之
- 五35 取捨無顧當時愚案之紕繆而已
- 五36 于時永仁第三曆乙應鐘仲旬第二天
- 五37 至于晡時終草了 執筆衡門覺如
- 五38 今同歲太呂仲旬第三天又書之

語彙索引 凡例

- 一、本索引は、専修寺蔵『善信聖人親鸞傳繪』（二二九五年写、覚如筆）に用いられている総ての語を、複製本（続々日本絵巻大成 伝記・縁起篇1、中央公論社、一九九四年）に基づいて、収めたものである。なお、本絵巻については、千葉県照願寺蔵本の語彙総索引が「鎌倉時代語研究」第十一輯（一九八八年）に発表されている（金子彰・高橋富美子編「照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿」）。
- 一、専修寺本『善信聖人親鸞傳繪』（以下、本資料という）は、親鸞の曾孫覚如（二二七〇〜一三五一）の自筆本と見られており、漢字のほとんどに当時の振り仮名が加點されている。しかし、本文と振り仮名とに仮名遣いの違いが見られ（佐藤理絵『善信聖人親鸞傳繪』の国語学的研究）（平成十年度広島大学学校教育学部卒業論文）、振り仮名が本文と同一人物の手になるものかどうかは疑問である。ただし、仮名字体から、本文と同時期の加點であると判断される。よって、鎌倉時代語研究上有効と判断し、本索引を作成するものである。
- 一、本資料は、巻第一〜巻第五までの五軸で伝存している。
- 一、各項の記載形式は、見出し語・用例・用例の所在とした。
- 一、見出し語について
1. 見出し語は、平仮名で歴史的仮名遣（字音語はいわゆる字音仮名遣）で統一した。
 - a. 和語には、私に濁点を付した。
 - b. 漢字の読みは、本資料の振り仮名に依る。本資料に振り仮名が存しない場合は、『善信聖人親鸞傳繪』の他の諸本に依る。
 2. 排列は、最終音節までの五十音順とした。
 3. 参照項目を設け、複合語の低位要素からも検索できるようにした。
 4. 見出し語は、単語を原則とした。
 - a. 漢語にサ変動詞「す」の付いた形は、一語として扱った。

- b. 漢語に助動詞「なり」「たり」の付いた形は、二語として扱った。
- c. 和語を語幹とするいわゆる形容動詞は、一語として認めた。
- d. 引用されている書名などは、単語に分割せず、そのままの形で掲出した。

一、用例について

- 1. 用例は、「翻字本文」に基づいて掲出した。
- 2. 用例の引用は、以下の通りとした。
 - a. 自立語・付属語とも、原則として当該語のみを示した。
 - b. ただし、活用語は、その用法に応じて下接語（または語句）も示した。
- 3. 用例の排列は、以下の通りとした。
 - a. 活用しない語は、出現順に排列した。
 - b. 活用語は、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の順に排列した。
 - c. 同一単語で用例の表記が全同の場合は、初出例の下に所在を記すにとどめた。

一、用例の所在について

- 1. 用例の所在は、「翻字本文」に基づいて記した。
- 2. 漢数字は、底本の巻（第一巻〜第五巻）である。
- 3. 算用数字は、各巻での通し行数である。
- 4. 行間の注の所在は、本行所在算用数字の下に「右」「左」と書いて示した。

一、本索引は、佐々木勇・佐藤理絵・寺田守・田中哲宙・森田朋子で作成した。

一、索引作成の手順、製版のものとのファイル作成は、寺田守提案の方式がとられ、入力全般に亘って同氏の尽力が大きかった。

ありと 二五二 三二四 四七四
あるへからず 二八四
ありくに(有國) アリクニ 一
有國 有國 一
ありのままに《副詞》
ありのまゝに 四二二
ありのり(有龜) アリノリ 一
有龜 有龜 一
あるいは《接続詞》
アルイハ 一四三 三一一
或は アルイハ 二七五 二七六
あるとき(或時) アルトキ 二二 二三 三三八 四六一
或時 或時
あるひ(或日) アルヒ 四三二
或日 或日
あんず(安) アンズ 四三二
安す 安す
あんず(案) アンズ 一四九
案するに 案するに
案に アンズ 四一七
案に
あんないす(案内) アンナイ 四三二
案内し給ふに 案内し給ふに

い
いうせい(幽栖) イウセイ 四三
幽栖 幽栖
いかでか《副詞》 イカデカ 一五九 二八七
いかでか
いかり(忿) イカリ 三九
忿 イカリ
いきどほり(鬱) イキドホリ 二七六 左
イキトフリ
鬱 イキトフリ 三三
いぎやう(易行) イギヤウ 一二四
易行 イギヤウ
いぎやうだう(易行道) イギヤウダウ 二四〇
易行道 イギヤウダウ
いくせんばん(幾千萬) イクセンバン 二二二
千萬 イクセンバン
幾千萬 幾千萬 二二四 二二五
いげ(已下) イゲ 二八〇
已下 イゲ
いささか《副詞》 イササカ 四四〇 五一
いささか
いささかも《副詞》 イササカモ 四四〇 五一
いささかも

いさゝかも
いしゆ(意趣) イシユ 二八三
意趣 イシユ
いたじきやま(板敷山) イタジキヤマ 二五一
板敷山 イタジキヤマ
いたす(致) イタス 四一四
いたすへしと イタスヘシト 二五四
いたすへき イタスヘキ 四四二
いたすところ イタスところ 二七〇
いたたく(戴) イタタク 二七〇
戴 イタタク
いたみ(痛) イタミ 一七
痛 イタミ
いたる(至) イタル 五三
いたりては イタリテハ 二九二
至(用) 至(用) 五三七
いち(市) イチ 二三五
市 イチ
いちうす(移住) イチウス 四五四
移住したまひき イチウス
いちかう(一向) イチカウ 四七五 七九 八七
一向 イチカウ
いちかうせんじゆ(一向専修) イチカウセンジユ 四七五 七九 八七

いちかみせんじゆ
一向専修 一カミセンジユ 四九
一向専修 一カミセンジユ 四八〇
いちかうせんねむ(一向専念) イチカウセンネム 四七二
一向専念 一カウセンネム
いちごん(一言) イチゴン 二六八
一言 イチゴン
いちさい(一切) イチサイ 一四〇
一切 イチサイ
いちし(一師) イチシ 二四五
一師 イチシ
いちしむ(一心) イチシム 四七八
一心 イチシム
いちしやう(一生) イチシヤウ 四三七
一生 イチシヤウ
いちしゆ(一宗) イチシユ 四七一
一宗 イチシユ
いちにん(二人) イチニン 四一一
二人 イチニン
いちぶちみやう(一佛名) イチブチミヤウ 一七四
一佛名 イチブチミヤウ

おとろける	四二四	おほす(仰)	一五二 二七三 九九四	思出 <small>オモヒデ</small>	二四九	恩 <small>オン</small>	一七八
おなじ《形容詞》		被二仰一 <small>ラシテオモセ</small>	6 42 64	おもふ(思)	二四九	おんきよ(恩許)	
をなしく	二二七	おほせられ	二五四	思 <small>オモヒ</small>	五一五	恩許 <small>オンキョ</small>	二二
同 <small>オホシキ</small>	二一七 9 15 五 12 18	おほたに(大谷)		おもふに	四五一	おんけん(隠顯)	
同 <small>オホシキ</small>	二一〇	大谷 <small>オホタニ</small>	五二一七	思ふ(体)	二五二	隠顯 <small>オンケン</small>	四七四
同(体)	五三八	おほぶのがう(大部郷)	四五九	おもふ(体)	四一九	おんじよ(恩恕)	
おのおの(各各)		おほやけ(公)	二二八左 四八八左	思 <small>オモヒ</small> (体)	四四〇	恩恕 <small>オンショ</small>	二六
おのく	二五八	オホヤケ	一四八	おもむく(赴)	二四	おんち(恩致)	一六七
をのおの	四四七	おほゆ(寛)	二二五 四一〇	おもむかすは	一六五	恩致 <small>オンチ</small>	
各、	四七四	おほえて	五二七	赴かんや <small>オモム</small>	一六五	か	
をのく	五一四	おほよそ《副詞》	二二五 四一〇	おもむかすは	一六五	か	
おはします(御座)	二一〇六	おほよそ	二二五 四一〇	おもむかすは	一六五	か	
おはしますさん		凡 <small>オホヨソ</small>	五二七	赴まし <small>オモムキ</small> くけり	四三二	か《助詞》	一六六 二四四 七二
おほきなり(浩)		おむでし(御弟子)	二五〇	おもんず(重)	四三二	が(我) ↓ われ	
おほきに	三二〇	御弟子 <small>オムデシ</small>	二五〇	重する <small>オモク</small>	二二八	我が	一三七 四六七
浩なる	一七八	おむまへ(御前)	二七九	重して	五二五	が《助詞》	
おほけなし《形容詞》		御前 <small>オムマヘ</small>		おもんみる(以)	二二八	か	
おほかりし	二八〇	おもし《形容詞》 ↓ おもんず		以 <small>オモシレハ</small>	三二四	か	
おほし	二四五 二八	おもひ(思)	四一八	および(及)	三二四	か	
多し <small>オホシ</small>	四一一	思 <small>オモヒ</small>		及 <small>オヨビテ</small>	四三二	がいしむ(害心)	四三七 四〇
		おもひで(思出)		をよむて	四三二	害心 <small>ガイシム</small>	四一三 二二
		おん(恩)		オム	一五八左	がう(郷) ↓ いなだのがう・	
						おほぶのがう	

かうかく (行客) 432
 行客 カウカク
 かうさん (高山) 44
 高山 カウサン
 がうす (号) 16
 号 カウ
 号 (止) 8
 号 (止) 4
 号 (止) 4
 号す (止) 14
 かうぶる (蒙) 2
 蒙て カウ
 蒙 カウロ
 蒙 (止) 21
 かうふるに 41
 かうみやう (告命) ↓かうめい 45
 告命 カウミョウ
 かうみやうす (告命) 36
 告命して カウミョウ
 かうめい (告命) 47
 告命 カウメイ
 かうめい (教命) 47

教命 カウメイ 218
 かうもん (衡門) 537
 衡門 カウモン
 がが (峨峨) 43
 峨々 カガ
 かかはる (拘) 70
 拘 カガ
 拘て カガ
 かかる (掛) 32
 かかりつゝ カガ
 かき (柿) 26
 柿 カキ
 かく (書) 9
 シムカロ カク
 令三書 カク
 令三書 カク
 令三書 カク
 令三書 カク
 令三書 カク
 書賜 カク
 書載たまふ カク
 書て カク
 書 (止) 38
 かく (掛) 30
 かけ カク
 がくさん (岳山) 30

岳山 カクサン 43
 がくと (學徒) 7
 學徒 カクト
 かくによ (覺如) 37
 覺如 カク
 かくべち (各別) 101
 各別 カクベチ
 各別 カク
 かげ (影) 31
 カケ カケ
 かさまのこほり (笠間郡) 4
 笠間郡 カサマノコホリ
 かしこ (彼此) 21
 かしこ カシコ
 かしこし 《形容詞》 105
 かしこくて カシコ
 かず (數) 35
 かす カス
 かすかなり (幽) 43
 カスカナル カス
 かた (方) 102
 かた カタ
 かたし 《形容詞》 22
 難 カタシ

かたし 48
 422
 かたじけなし 《形容詞》 471
 カタシケナシ カタ
 忝 カタシ
 かたち (形) 33
 形 カタチ
 かたはら (傍) 77
 傍 カタハラ
 傍 カタ
 かたぶく (傾) 35
 かたふきぬ カタ
 カタフキ カ
 かつ (可通) 69
 可通 カツ
 かつは 《副詞》 49
 且は カツ
 かつ (河東) 9
 河東 カトウ
 かなしむ (悲) 15
 悲 カナシム
 かならず 《副詞》 43
 必 カナラズ
 かねさね (兼實) 17
 カネサネ カ
 かの (彼) 17

きむじやう (今上)	キムジヤウ	今上	三	8	きやうろん (經論)	キヤウロン	經論	一	52	57
きむず (禁)	キムズ	禁	四	22	きやくじん (客人)	キヤクジン	客人	四	43	43
きむめいてんわう (欽明天皇)	キムメイテントウ	欽明天皇	一	55	きよ (居)	キヨ	居	四	56	56
きやう (卿)	キヤウ	卿	一	5	きよう (御宇)	キヨウ	御宇	一	55	55
郷 (卿)	キョウ	郷	三	18	きよしよ (居緒)	キヨシヨ	居緒	三	13	13
ぎやう (行)	ギヤウ	行	三	6	きりよく (記録)	キリヨク	記録	一	49	49
ぎやうおう (饗應)	ギヤウオウ	饗應	四	44	きる (切)	キル	切	四	26	26
ぎやうげん (狂言)	ギヤウゲン	狂言	五	32	きんしん (近臣)	キンシン	近臣	一	11	11
ぎやうじや (行者)	ギヤウジヤ	行者	一	36	75	きんしん (近臣)	キンシン	近臣	一	11
ぎやうしやく (經釋)	ギヤウシヤク	經釋	四	69	く	ク	く	四	89	89
ぎやうしやう (行證)	ギヤウシヤウ	行證	三	4	ぐあん (愚案)	グアン	愚案	五	35	35
ぎやうふたい (行不退)	ギヤウフタイ	行不退	一	56	くう (空)	クウ	空	一	9	9

くうし (空師)	クウシ	空師	三	2	13	くたす (降)	クタス	降	一	33	38	60	47
くうしやうにん (空聖人)	クウシヤウニン	空聖人	三	14	くたし	クタシ	降	二	3	3			
くぎやう (公卿)	クギヤウ	公卿	二	30	くだる (降)	クダル	降	一	75	75			
くぎやうす (恭敬)	クギヤウス	恭敬	四	48	くだる (降)	クダル	降	一	22	22			
くくあつ (口決)	ククアツ	口決	四	57	くだん (件)	クダン	件	四	62	62			
くげ (公家)	クゲ	公家	一	7	くち (口)	クチ	口	二	109	109	52		
くごう (弘興)	クゴウ	弘興	一	51	くつ (弘通)	クツ	弘通	一	78	78	44		
くさい (九歳)	クサイ	九歳	一	10	くつがい (屈敬)	クツガイ	屈敬	二	75	75			
くしす (耻仕)	クシス	耻仕	四	89	くつしやうす (屣請)	クツシヤウス	屣請	四	48	48			
くじゆん (九旬)	クジユン	九旬	五	7	くどく (愚禿)	クドク	愚禿	二	5	472			
くぜい (弘誓)	クゼイ	弘誓	一	59	くに (國)	クニ	國	一	2	2			
くぜぼさち (救世菩薩)	クゼボサチ	救世菩薩	一	59	とさのくに・ひたちものくに	トサノクニヒタチモノクニ	とさのくに・ひたちものくに	一	2	2			

くねん(九年)	クネン	九年	くわうてい(皇帝)	クワウタイ	皇帝	クワンハク	くゐす(歸)	クヰス	クワンハク	二七左	決 <small>ケツ</small> 定 <small>テイ</small> しまし <small>シ</small> けり <small>ケリ</small>	一三〇
くぼむ(九品)	クボム	九品	くわうとく(廣徳)	クワウトク	廣徳	くゐんきう(元久)	クヰンキウ	くゐんきう(元久)	クヰンキウ	二二八	元 <small>ゲン</small> 久 <small>キウ</small>	二六
ぐまい(愚昧)	グマイ	愚昧	くわしやう(和尚)	クワシヤウ	和尚	歸 <small>キ</small> し <small>シ</small> つ <small>ツ</small>	クヰシツ	くゐんくう(源空)	クヰンクウ	四二七	源 <small>ゲン</small> 空 <small>クウ</small>	一六三 二一七 三〇三
くまの(熊野)	クマノ	熊野	くわしやうゐ(和尚位)	クワシヤウヰ	和尚位	歸 <small>キ</small> せ <small>セ</small> ん	クヰセン	くゐんくうしやうにん(源空)	クヰンクウシヤウニン	一四二 四七九	源 <small>ゲン</small> 空 <small>クウ</small> 聖 <small>セイ</small> 人 <small>ニン</small>	一二〇 二二五
くゆ(悔)	クユ	悔	くわせい(花城)	クワセイ	花城	くゐそう(貴僧)	クヰソウ	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	四六二	源 <small>ゲン</small> 空 <small>クウ</small> 聖 <small>セイ</small> 人 <small>ニン</small>	三二〇
くらし《形容詞》	クラシ	《形容詞》	くわもん(華文)	クワモン	華文	くゐばう(貴坊)	クヰバウ	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	二七六 左	源 <small>ゲン</small> 空 <small>クウ</small> 聖 <small>セイ</small> 人 <small>ニン</small>	三二〇
昏 <small>クラク</small>	クラク	昏	くわん(願)	クワン	願	くゐよくによしん(玉女身)	クヰヨクニヨシン	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	二七〇	玉 <small>タマ</small> 女 <small>メ</small> 身 <small>ミ</small>	一四
冥(体)	メイ	冥(体)	くわんおむ(觀音)	クワンオム	觀音	くゐ(化)	クヰ	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	五三三	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五
くろたに(黒谷)	クロタニ	黒谷	くわんかひ(願海)	クワンカヒ	願海	くゐ(化)	クヰ	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	二二	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五
くわうだい(廣大)	クワウダイ	廣大	くわんぎやう(觀經)	クワンギヤウ	觀經	くゐん(化身)	クヰン	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	一六八	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五
后宮	クワウグウ	后宮	くわんきやう(勸化)	クワンキヤウ	勸化	くゐん(化身)	クヰン	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	一六八	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五
皇太后宮	クワウタイコウ	皇太后宮	くわんくゐ(勸化)	クワンクヰ	勸化	くゐん(化身)	クヰン	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	一六八	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五
くわうたいし(皇太子)	クワウタイシ	皇太子	くわんばく(閑白)	クワンバク	閑白	くゐん(化)	クヰン	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	一六八	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五
皇太子	クワウタイシ	皇太子	くわんばく(閑白)	クワンバク	閑白	くゐん(化)	クヰン	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	一六八	玄 <small>ケン</small> 風 <small>フウ</small>	一五

こらぢ <small>(小路)</small> ↓ おしこうち・までの <small>(こうち)</small>	こら	二67 109 四5	こら	ことく	二27
こらぢやう <small>(弘長)</small>	ス <small>ス</small>	二7	御信心 <small>ゴシンシン</small>	ことし <small>《助動詞・形容詞》</small>	一46 三18
弘長 <small>ヒロナガ</small>	こらぢ <small>(意)</small> ↓ その <small>(ころ)</small>		こそ <small>《保助詞》</small>	ことく	一46 三18
こらとく <small>(厚恩)</small>	こらぢ <small>(心)</small>		こそ	ことし <small>《形容詞》</small>	四52 52
厚恩 <small>コホトク</small>	こらぢ	一46 二29	こそく <small>(御息)</small>	こととく	四37
こらふくじ <small>(興福寺)</small>	心 <small>ココロ</small>	四19	御息 <small>ゴニシ</small>	こととく	
興福寺 <small>キョフクジ</small>	こらぢ <small>(心得)</small>	二108	こそる <small>(挙)</small>	こととく	
こらほふ <small>(興法)</small>	こらぢ <small>(志)</small>	二20	こだい <small>(五代)</small>	こととく	
興法 <small>キョフホフ</small>	こらぢ <small>(志)</small>	四83	五代 <small>ゴダイ</small>	こととく	
公務 <small>コウム</small>	志 <small>ココロサシ</small>	五31	こちもく <small>(骨目)</small>	こととく	
こらりう <small>(興隆)</small>	志	二52	骨目 <small>コチモク</small>	こととく	
興隆 <small>キョウリウ</small>	こらぢ <small>(試)</small>	二56 61	こつ <small>(忽)</small>	こととく	
こらやう <small>(古郷)</small>	試 <small>コシト</small>	二16	こたう <small>(五条)</small>	こととく	
古郷 <small>コキョウ</small>	こらぢ <small>(御歳)</small>	二82 86 95	五条 <small>ゴコウ</small>	こととく	
こらくん <small>(國郡)</small>	御歳 <small>ゴサイ</small>	二91	こたし <small>(事)</small>	こととく	
國郡 <small>コククン</small>	こらぢ <small>(御座)</small>	二82 86 95	こたし <small>(御信心)</small>	こととく	
こくふ <small>(國府)</small>	御座 <small>ゴザ</small>	二82 86 95	御信心 <small>ゴシンシン</small>	こととく	
國府 <small>コクフ</small>	こらぢ <small>(御執筆)</small>	二82 86 95	御信心 <small>ゴシンシン</small>	こととく	
こくらく <small>(極楽)</small>	御執筆 <small>ゴシツペツ</small>	二82 86 95	御信心 <small>ゴシンシン</small>	こととく	
極楽 <small>ゴクラク</small>	こらぢ <small>(後白河)</small>	二82 86 95	御信心 <small>ゴシンシン</small>	こととく	
こら <small>(斯)</small>	後白河 <small>ゴシラカハ</small>	二82 86 95	御信心 <small>ゴシンシン</small>	こととく	

此來 <small>ココヨク</small>	五 2	金剛 <small>コウカウ</small>	二 70
このころ <small>ココロ</small> (今此)		こむねん <small>コムネン</small> (今年)	
今一此 <small>イマヒツ</small>	四 56	今年 <small>コトシ</small>	二 16
このとき <small>コトキ</small> (此時)		こやく <small>コヤク</small> (巨益)	
此時 <small>コトキ</small>	一 57 三 18 四 6 五 20	巨益 <small>コヤク</small>	四 65
このとき	二 75	こゆ <small>コユ</small> (越・超)	
このほか <small>コノホカ</small> (此外)		越 <small>コエ</small>	四 1
此外 <small>コノホカ</small>	三 15	超 <small>コエ</small> たり	五 22
このゆゑ <small>コノユヱ</small> に《副詞》		これ <small>コレ</small> (是・此・茲・斯・之)	
このゆへ <small>コノユヘ</small> に	一 69	是 <small>コレ</small>	一 12 二 22 三 39 四 53 五 72 六 19 七 23
是故 <small>コノユヘニ</small>	三 12	これ <small>コレ</small>	二 3 三 2 四 29 五 47 六 55 七 77
所以 <small>コノユヘニ</small> に	四 71	これ <small>コレ</small>	一 27 二 56 三 67 四 27 五 32
このゑ <small>コノヱ</small> (近衛) ↓こんのゑ		此 <small>コレ</small>	三 33 四 45 五 67 六 76 七 12 八 27 九 29
こひち <small>コヒチ</small> (御筆)		茲 <small>ココ</small>	一 39 二 69
御筆 <small>コヒチ</small>	二 15	斯 <small>ココ</small>	一 71 二 78 三 10
こふ <small>コフ</small> (業)		之 <small>ココ</small>	二 9 三 44 四 36 五 47 六 79
業 <small>コフ</small>	二 8	コレ	四 78
こほり <small>コホリ</small> (郡) ↓かさまのこほり		之 <small>コレ</small>	二 9 三 44 四 36 五 47 六 79
り・なかのさい <small>コホリ</small> のこほり		之 <small>コレ</small>	二 9 三 44 四 36 五 47 六 79
こむあん <small>コムアン</small> (今案)		之 <small>コレ</small>	二 9 三 44 四 36 五 47 六 79
今案 <small>コムアン</small>	一 73	之 <small>コレ</small>	二 9 三 44 四 36 五 47 六 79
こむがう <small>コムガウ</small> (金剛)		孤嶺 <small>コレイ</small> (孤嶺)	四 34

ころ <small>コロ</small> (比) ↓このころ・そのころ		在國 <small>サイコク</small> し給けり	三 22
比 <small>コロ</small>		さいしやう <small>サイシヤウ</small> (宰相)	一 5
ころ <small>コロ</small>	一 11 五 17	さいしやう <small>サイシヤウ</small> (在生)	二 25 五 27
ころも <small>コロモ</small> (衣)	一 19	在生 <small>サイシヤウ</small>	二 25 五 27
衣 <small>コロモ</small>	四 26	さいしやうぶち <small>サイシヤウブチ</small> (在成佛)	二 13
こゑ <small>コエ</small> (聲)		在成佛 <small>サイシヤウブチ</small>	二 13
聲 <small>コエ</small>	五 4	さいしやう <small>サイシヤウ</small> (最勝)	二 19
ごんげん <small>ゴンケン</small> (權現)		最勝 <small>サイシヤウ</small>	二 19
權現 <small>ゴンケン</small>	四 42	さいせい <small>サイセイ</small> (在世)	二 15 五 14 二 22
こんのゑ <small>コンノヱ</small> (近衛)		在世 <small>サイセイ</small>	二 15 五 14 二 22
近衛 <small>コンノヱ</small>	一 4	さいてん <small>サイテン</small> (西天)	一 52
さ		西天 <small>サイテン</small>	一 52
ざ <small>ザ</small> (座) ↓ござ		さいみやう <small>サイミヤウ</small> (罪名)	三 14 五 15
座 <small>ザ</small>	二 57 六 4 六 6 六 74	罪名 <small>サイミヤウ</small>	三 14 五 15
さい <small>サイ</small> (歳) ↓ごさい		さう <small>サウ</small> (草)	五 37
さい <small>サイ</small>	二 57 六 4 六 6 六 74	さう <small>サウ</small> (相應)	四 65
さいくわ <small>サイクワ</small> (罪科)		さう <small>サウ</small> (葬)	四 65
罪科 <small>サイクワ</small>	三 11	葬 <small>サウ</small> したてまつる	五 11
さいくわす <small>サイクワス</small> (罪科)		さうせち <small>サウセチ</small> (霜雪)	
罪科 <small>サイクワ</small> せらるへき	三 2		
さいこくす <small>サイコクス</small> (在國)			

霜雪 <small>サキユキ</small>	一七	さどのあん (佐渡院)	三二六	さむしふ (参集)	二五〇	じ《助動詞》「打ち消し」「終止形」	二一〇八
さうでん (相傳)	五二〇	佐渡院		参集		し	
相傳		さとの (論)	二一九	さむしむ (三心)	四七七	じ (字)	
さうなし《形容詞》		論		サムシム		字	二八 一五 一六 三二 一三 一九
左右なく	四二〇	さねたて (真楯)	一	さむねん (三年)	一三一	しうねむ (宿念)	四五
さかひ (塙)		真楯		三年		宿念	
塙	四三〇	ざふぎやう (雜行)	二六	さむはい (三輩)	四七五	しうほう (宿報)	一三六
さかりなり (煽・盛)		雜行		サムハイ		宿報	
煽なり	一七二	さまざまに《副詞》	四四九	さむびやくはちじふよにん (三百八十余人)	一三六	しかあり (然) ↓しかり	二三六
盛 <small>オカシナリ</small>	三五	さまざまに		三百八十余人		しかあり	
盛 <small>オカシナル</small>	五二二	さまく (覚)	四四八	さむびやくよにん (三百余人)	二五八	しかあるに《接続詞》↓し	二四四
さき (前)		覚	四四五	三百余人		しかあるに	
サキ	一一七	さむ (三) ↓しちじゆんさむ		さらに	一七三 四一六 一七二	しかあれば《接続詞》↓し	二四四
前 <small>サキ</small>	一一二	さむぎやう (三經)	四七四	さらに	一六八 一〇四	しかあれば	二四八 八七
さきやう (左京)		三經		さらに		しかあれば	
左京	四五四	さむくわい (三槐)	二二〇	さらに	四九〇	しがう (紫毫)	五三二
さしおく (關)		サムクワイ		さらに		紫毫	
關 <small>サシオキ</small>	二二九	サム (平壺) 槐 (平)		さらに		しかしながら《副詞・接続詞》	一七二
關 <small>サシオキ</small>		サム (平壺) 槐 (平)		さらに		併	
さしはさむ (挿)	四一三	さむくわん (三觀)	一五	し (之)	一三七	しかしながら	五二九
挿 <small>サシハサ</small>		サムクワン		之		しかのみならず《接続詞》	
さだいじん (左大臣)	一四七	さむこく (三國)	四七一				
左大臣		サムコク					

如之 <small>シカノミナラヌ</small>	二 32	しく(如) 如 <small>シカク</small>	自宗 <small>シニシ</small>	して《接続助詞》	四 73
しかり(爾・然) ↓しかれば <small>シカリシ</small>	一 14	しぐわち(四月)	じしん(侍臣) 侍臣 <small>シニシ</small>	して 一 23 42 51 四 9 16	46 86
然(止) 然 <small>シカル</small>	五 34	しくゑち(子月) 子月 <small>シクエチ</small>	しそ(緇素) 緇素 <small>シソ</small>	兮 <small>シ</small>	三 6
しかるに《接続詞》 ↓しかあ るに	二 53	しけう(四教) 四教 <small>シケウ</small>	した(舌) 舌 <small>シタ</small>	しと(緇徒) 緇徒 <small>シト</small>	一 35
然 <small>シカルニ</small>	二 5 3	しけう(師教) 師教 <small>シケウ</small>	じた(自他) 自他 <small>シタ</small>	しばらく《副詞》	一 14
尔 <small>シカルニ</small>	二 22	じけう(示現) 示現 <small>シケウ</small>	したがふ(従) 自他 <small>シタ</small>	しはらく しはらく	一 72 三 22 四 56
而 <small>シカルニ</small>	一 54 四 11 61 70 五 5	じげん(示現) 示現 <small>シケン</small>	したかひ	聖 <small>シハラク</small>	77
然に	四 72	じげんす(示現) 示現して	したし《形容詞》 親 <small>シタシト</small>	じふはうしゆじやう(十方衆生)	四 23
しかれば《接続詞》 ↓しかあ れば	一 51 二 65 四 91	しさい(死罪) 死罪 <small>シサイ</small>	したふ(慕) 慕 <small>シタフ</small>	じふはうしゆじやう(十方衆生)	二 12
然者 <small>シカレハ</small>	二 94	しじふはちぐわん(四十八願) 四十八願 <small>シジフハチクワン</small>	じちゆう(時中) 時中 <small>シチウ</small>	しふひち(執筆) ↓ししふひ ち	二 71
尔者 <small>シカレハ</small>	三 12	じしむ(自心) 自心 <small>シシム</small>	七月	執筆 <small>シシヒ</small>	五 37
然 <small>シカレト</small>	四 80	ししゆ(旨趣) 旨趣 <small>シシユ</small>	しちじゆんさむ(七旬三) 七旬三 <small>シチジュンサム</small>	執筆	二 71
しきぶきやう(式部卿) 式部卿 <small>シキフキヤウ</small>	一 4	じしゆ(自宗) 自宗 <small>シシユ</small>	じちん(慈鎮) 慈鎮 <small>シチン</small>	しふゑ(集會) 集會 <small>シフエ</small>	五 37
しきむ(禁禁) 禁禁 <small>シキム</small>	二 28			じみやう(自名) 自名 <small>シミヤウ</small>	二 55

しやうれき (聖歴)	シヤウレキ	三 8	宗 ^ノ	じゆしゐ (從四位)	シユシキ	一 11	儒林	シユリム	三 6	
聖歴				從四位				じゆりむ (樹林)	シユリム	二 29
じやうろん (諍論)	シヤウロン	二 81	從一位	しゆせんまんおく (數千万億)	シユセンマンオク	一 44	樹林	じゆん (旬) ↓しちじゆんさ	シユン	一 70
諍論				數千万億				む		
しやく (釋)	シヤク	二 5 9 60	終焉	しゆだう (修道)	シユダウ	四 68		じゆんず (順)	シユンズ	一 70
釋				修道				順て		
しやくくう (綽空)	シヤククウ	二 9 15	宗義	しゆつこん (出言)	シユツコン	二 51		しようがみやうがう (稱我名号)	シヨウガミヤウガウ	二 12
綽空				出言				稱我名号		
しやくくす (釋)	シヤククス	四 80	修行	しゆつす (述)	シユツス	四 24		しようぐゑん (承元)	シヨウクヱン	三 8
釋す				述す				承元		
しやくもん (釋門)	シヤクモン	三 5	宿鬱	しゆつり (出離)	シユツリ	二 42		しようじやうす (證誠)	シヨウジヤウス	四 79
釋門				出離				證誠す		
じやしやう (邪正)	シヤシヤウ	三 6	取捨	じゆてき (戎狄)	シユテキ	二 32		しようじやうでん (證誠殿)	シヨウジヤウデン	四 81
邪正				戎 (平過狄) ↓				證誠殿		
しやす (謝)	シヤク	一 79	取捨	じゆとくす (受得)	シユトク	一 29		しようだう (證道)	シヨウダウ	三 5
謝せんか				受得し				證道		
しやべう (社廟)	シヤベウ	四 38 90	主上	しゆはい (數輩)	シユハイ	三 10		しようち (勝地)	シヨウチ	四 55
社廟				數輩				勝地		
しやみほふりき (沙弥法力)	シヤミホフリキ	二 61	衆生	しゆひやくにん (數百人)	シユヒヤクニン	二 67		しようみやう (稱名)	シヨウミヤウ	五 5
沙弥法力				數百人				稱名		
しやりほち (舍利弗)	シヤリホチ	四 78	衆生	しゆりむ (儒林)	シユリム	五 23		しようりう (紹隆)	シヨウリウ	三 83
舍利弗				充満し						
しゆ (宗)			衆生	しゆりむ (儒林)						
			衆生							

紹隆 シヨウリウ	一	25	しよみん (庶民) シヨミシ	親友 シシク	しんず (信) シシ	四六
初夏 シヨウカ	二	7	しよむ (所務) シヨム	しんえい (真影) シシエ	信て シシ	四六
しよげう (諸教) シヨケウ	三	4	しよめ (所為) シヨメ	真影 シシエ	信して シシ	四七
諸教 シヨケウ	三	4	所為 シヨメ	しんか (臣下) シシカ	信するに シシ	二一〇五
しよじ (諸寺) シヨジ	三	5	じりき (自力) ジリキ	しんくう (信空) シシクウ	しんせち (真説) シシセ	四七〇
諸寺 シヨジ	三	5	自力 ジリキ	しんけ (真假) シシケ	真説 シシセ	四七〇
しよしやす (書寫) シヨシヤシ	二	22	しる (知) シラ	しんじち (真實) シシジチ	しんちよく (神勅) シシチヨク	四四七
書寫 シヨシヤシ	二	22	不三知 フサンチ	真假 シシケ	神勅 シシチヨク	四四七
しよしよ (處處) シヨシヨ	五	23	しらす シラス	しんじち (真實) シシジチ	しんひち (真筆) シシヒチ	二一三九 一一一
處處 シヨシヨ	五	23	しり シリ	真實 シシジチ	しんふたい (信不退) シシフタイ	二五六一 六四 六六 七四
しよす (書) シヨシキ	二	6	しるし (徽) シルシ	真心 シシシム	信不退 シシフタイ	二五六一 六四 六六 七四
書 シヨシキ	二	6	しろし 《形容詞》 シロシ	しんじむ (信心) ↓ごしんじ シシジム	しんもん (真文) シシモン	二一五
しよす (處) シヨサ	一	64	白 シロキ	む ム	真文 シシモン	二一五
處 シヨサ	一	64	じあん (慈圓) ジアン	しんしむ (信心) シシシム	しんらん (親鸞) シシラン	二一五
しよほう (諸方) シヨハウ	三	11	慈圓 シエン	しんしゆ (真宗) シシシユ	しんらん (親鸞) シシラン	一一七 二二五 五七 七二 七八
諸方 シヨハウ	三	11	しん (信) シン	真宗 シシシユ	しんらん (親鸞) シシラン	二一五
しよふち (諸佛) シヨフツ	四	78	しんいう (辛酉) シンイウ	しんじゆん (信順) シシジユン	親鸞上人 シシランシヤウジン	二一五
諸佛 シヨフツ	四	78	辛酉 シムイウ	信順 シシジユン	しんせき (人屋) シシセキ	四三三
しよまう (所望) シヨマウ	二	52	しんう (親友) シンウ	しんじん (真信) シシジン	真信 シシジン	二一七〇
所望 シヨマウ	二	52				

す(為) ↓あそびす・あひぐす・あんす・あんないす・いんきよす・いんにふす・えつす・おもんず・がうす・かうみやうす・きむす・くぎやうす・くしす・くつしやうす・くぬす・くゑす・くゑちちやうす・ぐんきよす・ぐんしふす・けいす・けんしやす・こうぎやうす・こうす・ざいくわす・ざいこくす・さうおうす・さうす・じげんす・しやうす・しやうず・じやうじゆす・しやくす・しやくす・じゆつす・じゆとくす・じゆまんす・しようじやうす・しよしやくす・しよす・しんず・せうめちす・せふざいす・せんしふす・せんせちす・せんねむす・せうたちす・せうもんす・たいす・たいちよす・ただしくす・たちす・たんだす・ちさむす・ちやくふくす・ちゆす・づぐわす・つみす・ていきふす・はいたいす・はんす・ひとしくす・ふ

がうす・ふぞくす・へむふす・ほうびす・ほちきす・まんぞくす・やうかうす・らいしす・らろうす・りやくす・わうへんす・ぬす
 せむ 四 88
 し侍らんか 二 50
 し侍る 二 81
 為^ヌ 二 9 三 12
 す《助動詞》「使役」
 せたまふ 二 95
 せたまはし 二 107
 ず《助動詞》「打ち消し」↓
 しかのみならず
 すは 一 58 64 66
 す 一 73 二 33 65 84 104 105 四 17 41 67 91 五 3 4 24
 すよりは 二 42
 不^ヌ 三 6 10 五 28
 ス 三 12 12
 すと 五 15
 不 五 32
 さる 二 59

ゝ(き)るへき 二 89
 さるに 四 45
 さるそや 四 81
 すいじやく(垂迹) 一 61 69 四 84 85
 垂迹^{スイジツ}
 すくなし《形容詞》
 少^{スクナク} 四 11
 すこぶる《副詞》
 頗^{スコブル} 四 18 五 22
 すすむ(勸)
 勸^{ススム} 四 75
 勸^{ススムル} 四 72
 すたる(廢)
 廢^{スタル} 三 5
 すつ(棄・捨)
 棄^{スツ} 二 6
 捨^{スツ} 四 26
 すでに《副詞》
 既^{スデニ} 二 22 四 8
 巴^{スデニ} 三 12
 すてに 四 33
 すなはち《接続詞》

則^{ソナヘ} 一 22 四 80
 即 一 56
 即^{ソナヘ} 一 60 二 53 四 73
 すなわち 一 68 二 4 100
 四 21 28 67 82
 すべて《副詞》
 都^{ソラ} 二 36
 すへて 五 22
 すまひ(栖)
 スマイ 四 3 左
 栖^{ソヒ} 四 53
 すむ(住) ↓うつりすむ
 せ

その	— 44	二 35	四 89	90
其 <small>ソノ</small>	— 21	三 12	五 24	
その	— 37			
そのころ (其意)	— 59			
其意 <small>ソノコトハ</small>	— 59			
其詞	— 53			
そのころ	— 59			
そのせつ (其節)	— 45			
其節 <small>ソノセツ</small>	— 45			
そのてい (其昧)	— 41			
其昧	— 41			
そのとき (尔時・其時)	— 45			
尔時 <small>ソノトキ</small>	— 45			
そのとき	— 45			
其時 <small>ソノトキ</small>	— 45			
そのゆゑ (其故)	— 82			
そのゆへ	— 82			
そのゆへ	— 89			
そむく (背)	— 39			
背 <small>ソムク</small>	— 39			
そもそも 《接続詞》				

抑 <small>オス</small>	— 63			
ぞや 《連語》 ↓ぞ・や				
そる (剃)	— 13			
ソリ	— 13			
それ (夫・尔)	— 2	四 64		
夫 <small>ソレ</small>	— 2	四 64		
尔 <small>ソレ</small>	— 2	四 64		
そん (孫)	— 5			
孫 <small>ソン</small>	— 5			
そんぎやう (尊敬)	— 42			
尊敬 <small>ソンギヤウ</small>	— 42			
そんげん (尊顔)	— 42			
尊顔 <small>ソンゲン</small>	— 42			
尊顔	— 42			
そんせい (尊成)	— 42			
尊成 <small>ソンセイ</small>	— 42			
尊成	— 42			
そんぢう (尊重)	— 48			
尊重 <small>ソンヂウ</small>	— 48			
尊重	— 48			
そんよう (尊容)	— 62			
尊容 <small>ソンヨウ</small>	— 62			
尊容	— 62			
た				
だいきやう (大經)				
大經 <small>ダイキヤウ</small>				
だいくにち (第九日)	— 475			
第九日 <small>ダイクニチ</small>	— 475			
第九日	— 475			
だいきむ (第三)	— 19			
第三 <small>ダイキム</small>	— 19			
第三	— 19			
だいきむてん (第三天)	— 58			
第三天 <small>ダイキムテン</small>	— 58			
第三天	— 58			
だいきむれき (第三曆)	— 56			
第三曆 <small>ダイキムレキ</small>	— 56			
第三曆	— 56			
たいし (太子) ↓じやうぐう	— 68			
太子 <small>タイシ</small>	— 68			
太子	— 68			
たいし (大士) ↓にだいし	— 52			
大士 <small>タイシ</small>	— 52			
大士	— 52			
だいにしやうにん (大師聖人)	— 67			
大師聖人 <small>ダいにしやうにん</small>	— 67			
大師聖人	— 67			
だいにしちにち (第七日)	— 17			
第七日 <small>だいにしちにち</small>	— 17			
第七日	— 17			
だいにしにち (第四日)	— 7			
第四日 <small>だいにしにち</small>	— 7			
第四日	— 7			
たいしやう (大將)	— 4			
大將 <small>タイシヤウ</small>	— 4			
大將	— 4			
だいにしやうだいじん (太政大臣)	— 4			
太政大臣 <small>だいにしやうだいじん</small>	— 4			
太政大臣	— 4			
だいにしやうてんわう (太上天皇)	— 7			
太上天皇 <small>だいにしやうてんわう</small>	— 7			
太上天皇	— 7			
だいにしよくわん (大織冠)	— 3			
大織冠 <small>だいにしよくわん</small>	— 3			
大織冠	— 3			
だいにしん (大進)	— 6			
大進 <small>だいにしん</small>	— 6			
大進	— 6			
だいにしん (大臣) ↓かんあん	— 30			
大臣 <small>だいにしん</small>	— 30			
大臣	— 30			
たいす (對)	— 47			
對 <small>たいす</small>	— 47			
對	— 47			
たいそ (太祖・太祖)	— 25			
太祖 <small>たいそ</small>	— 25			
太祖	— 25			
だいにしやう (大僧正)	— 10			
大僧正 <small>だいにしやう</small>	— 10			
大僧正	— 10			
だいだう (大道)	— 12			
大道 <small>だいだう</small>	— 12			
大道	— 12			

大道 <small>オウダウ</small>	24	たうちほんぜいちうぐわんふ こ(當知本誓重願不虛)	只	立へからさるそや	41
たいちよす(剃除) 剃除し給き <small>タイチヨス</small>	13	當知本誓重願不虛	ただいま《副詞》 只今 <small>タヂイマ</small>	たづぬ(尋) 尋 <small>タヅネ</small>	21 43 19 63
だいなこん(大納言) 大納言 <small>ダイナゴン</small>	4	たうちやう(刀杖) 刀杖 <small>タウチヤウ</small>	ただし《接続詞》 但 <small>タダシ</small>	尋て	48
だいてん(第二天)	36	たうど(唐土) タウト	ただしくす(正) 正する <small>タダシクス</small>	たてまつる(奉) 奉 <small>タテマツル</small>	13 49
だいはちにち(第八日) 第八日 <small>ダイハチニチ</small>	5	たうらい(當來) 當來 <small>タウライ</small>	ただちに《副詞》 直 <small>タダチニ</small>	たてまつりて	10
だいら(内裏)	6左	だうろ(道路) 道路 <small>ダウロ</small>	ただひと(只人) た一人	上 <small>ウヘ</small> 口 <small>クハ</small> (止)	22
たいりよ(太呂)	38	たかし《形容詞》 高 <small>タカシ</small> く	たたふ(漕) 漕 <small>タタフ</small> て	たてまつる(止)	14
たいれい(類齡) 類齡 <small>タイレイ</small>	7	たかなり(尊成) タカナリ	たちす(達) 達 <small>タチス</small> し	たてまつる(體)	11
だう(堂) ↓ みだう		たくはふ(蓄) 蓄 <small>タクハフ</small> 哉 <small>ヤ</small>	たちどころに《副詞》 立 <small>タチ</small> どころに	たのむ(憑) 憑 <small>タノム</small> (用)	34
だう(道)	30	たくひ(類) たくひ	たちまちに《副詞》 忽 <small>タチマチニ</small> ちまちに	たふとぶ(尊) たふとぶ	33
たうじ(當時)	35	たぐひ	たちまちに	たふる(絶)	5
當時		ただ《副詞》	たはまに	たふる	5
だうぞく(道俗) 道俗 <small>ダウゾク</small>	3	た	たはまはく(給)	たまはく	39
		104 85 53	たはまはる(賜)	たまはらせたまふ	95
		74	たはまはる(賜)	賜 <small>タマハル</small>	4
		174	たはまはる(賜)	賜 <small>タマハル</small> (止)	11
		32	たはまはる(賜)		95
		43	たはまはる(賜)		39
		38左	たはまはる(賜)		5
		54	たはまはる(賜)		33
		7	たはまはる(賜)		34
		48	たはまはる(賜)		11
		71左	たはまはる(賜)		14
		26	たはまはる(賜)		22
		42	たはまはる(賜)		10
		65	たはまはる(賜)		49
		42	たはまはる(賜)		8
		31	たはまはる(賜)		63
		30	たはまはる(賜)		81
		47	たはまはる(賜)		
		16	たはまはる(賜)		
		17	たはまはる(賜)		
		25	たはまはる(賜)		
		2	たはまはる(賜)		
		6	たはまはる(賜)		
		21	たはまはる(賜)		
		20	たはまはる(賜)		

たまはる (体)	二	102	ためなり	一	79
たまふ (給)	爲		ためひと (爲仁)	五	31 32
たまはすは	—	58 64	爲仁	三	8 16
たまはし	—	107	たゆ (絶)	五	7
給き	—	13 44 29	たへ		
たまひき	—	21 45 4	たり《助動詞》「完了」	二	47
たまひしに	—	26	たち	二	85 52 2
給けり	—	23	たり	四	64
たまひけるに	—	15	たれ	一	74
たまひにけり	—	20	たり《助動詞》「断定」	一	43 2 49 36
たまひけり	—	58	たる	四	37
たまひて	—	56	たるか		
たまふ (止)	—	78 2 67	たりき (他力)		
72 95 4 2 56 84 5 8			他力	—	28 2 25 92 95 96 101
たまふへしとも	—	57	たんこむ (端殿)	—	33
給ふに	—	19 4 36	端殿		
給へき	—	43	たんざす (端座)	—	35
たまふに	—	28 4 10	端座して		
たまへり	—	46	ち		
給へ	—	58			
ため (爲)					
ために	—	61 2 50 3 22			
四 63					

専修寺蔵「善信聖人親繪傳繪」翻刻並びに索引

ち (徴) ↓ちつ	一	74	直入	—	29
ちうぐわん (重願)	一	74	ちさむす (遅參)	—	62
重願			遅參して		
ちうしゆん (仲春)	—	38	ちち (父)	—	11 左
仲春			父		
ちうじゆん (中旬・仲旬)	—	7 3 17	ちつ (徴)	—	24
中旬			徴也		
仲旬	—	36 38	ちつきん (昵近)	—	35
ちうせち (忠節)	—	44	ちまた (衛)	—	4
忠節			衛		
ちうとう (仲冬)	—	51	ちやうあん (長安)	—	53
仲冬			長 (平安) (平聲)		
ちうなごん (中納言) ↓を	—	31	ちやうくみやう (長兄)	—	12
かささきのちうなごん			長兄		
ちおんほうとく (知恩報徳)	—	38	ちやくふくす (着服)	—	34
知恩報徳			着服せしめ		
ちかし《形容詞》	—	33	ちゆす (註)	—	24
ちかき			註		
ちかづく (近付)	—	76	ちよくめん (勅免)	—	18 21
近に			勅免		
ちぎに《副詞》	—				
直に					
ちぎにふ (直入)	—				

ちよくん (儲君)	一	57	次 <small>ヰ</small>	拙 (用)	五三	つらなる (連)	
儲君	一	60	つきのわどの (月輪殿)	つたはる (傳)	一三	つらなり侍るへし	二七
儲君	一	60	月輪殿	傳 <small>ワ</small>	一三		
ちゑ (智恵)	二	100	つきのわのどの (月輪殿)	つたふ (傳)	四七	て	
智恵	二	100	月輪殿	傳 <small>ワ</small>	四七		
ちんぴ (珍味)	四	50	就 <small>ヰ</small>	つちみかどのあん (土御門院)	三	て	
珍味	四	50	就 <small>ヰ</small>	土御門院	三		
			つ <small>ク</small> (着)	つ <small>ツ</small> (助詞)	四	て	
			可 <small>シ</small> 着 <small>ツ</small>	つ <small>ツ</small> (助詞)	四		
			つ <small>ク</small> (付)	つ <small>ツ</small> (助詞)	四		
			つきたまふへし	つ <small>ツ</small>	四		
			付 <small>テ</small>	つねに (副詞)	四		
			付 (用)	恒 <small>ニ</small>	四		
			つぐ (告)	つひに (副詞)	四		
			つけ給き	終 <small>ニ</small>	四		
			つくす (尽)	終 <small>ニ</small>	四		
			つくし	終 <small>ニ</small>	四		
			つぐわす (圖畫)	つ <small>ツ</small> (助詞)	四		
			圖畫	つ <small>ツ</small> (助詞)	四		
			つげ (告)	つら (副詞)	四		
			告 <small>ツ</small>	つら	四		
			つたなし (形容詞)	つら	四		
			つたなくして	つら	四		
				つらなる (連)	五		
				つらなり侍るへし	七		
				つたふ (傳)	一三		
				つちみかどのあん (土御門院)	一三		
				土御門院	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		
				つひに (副詞)	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				終 <small>ニ</small>	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small> (助詞)	一三		
				つ <small>ツ</small>	一三		
				つねに (副詞)	一三		
				恒 <small>ニ</small>	一三		

丁寧 <small>テイネイ</small>	四 44	と	一 14
朝 <small>アサ</small>	一 55	と	二 25
テウ	四 71 左	と	三 37
でう <small>(条)</small>	一 53	ト	四 46
てうてい <small>(朝廷)</small>	一 6	ト	五 52
朝 <small>アサ</small> 廷 <small>テイ</small>	一 6	ト	六 68
でし <small>(弟子)</small> ↓ おむでし	三 13	ト	七 89
弟子 <small>テシ</small>	一 15	ト	八 97
てんたい <small>(天台)</small>	四 71 左	ト	九 82
てんちく <small>(天竺)</small>	一 1	ト	一〇 99
てんわう <small>(天皇)</small> ↓ きむめい		ト	一一 109
てんわう・だいじやうてんわう		ト	一二 84
でんゑ <small>(傳繪)</small>		ト	一三 86
傳繪 <small>デンエ</small>		ト	一四 61
と		ト	一五 63
と		ト	一六 41
と		ト	一七 45
と		ト	一八 48
と		ト	一九 76
と		ト	二〇 二
と		ト	二一 33

とがむ <small>(答)</small>	四 55	と	二 85
洞院 <small>トウイン</small>	一 43	と	三 85
とうあん <small>(洞院)</small>	一 53	と	四 85
とうぼう <small>(東方)</small>	二 44	と	五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	六 85
とうくわん <small>(東関)</small>	一 57	と	七 85
とうしち <small>(同室)</small>	四 88	と	八 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	一〇 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	一一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	一二 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	一三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	一四 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	一五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	一六 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	一七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	一八 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	一九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	二〇 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	二一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	二二 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	二三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	二四 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	二五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	二六 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	二七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	二八 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	二九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	三〇 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	三一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	三二 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	三三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	三四 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	三五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	三六 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	三七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	三八 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	三九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	四〇 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	四一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	四二 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	四三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	四四 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	四五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	四六 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	四七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	四八 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	四九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	五〇 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	五一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	五二 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	五三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	五四 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	五五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	五六 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	五七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	五八 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	五九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	六〇 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	六一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	六二 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	六三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	六四 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	六五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	六六 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	六七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	六八 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	六九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	七〇 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	七一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	七二 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	七三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	七四 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	七五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	七六 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	七七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	七八 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	七九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	八〇 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	八一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	八二 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	八三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	八四 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	八五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	八六 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	八七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	八八 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	八九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	九〇 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	九一 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	九二 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	九三 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	九四 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	九五 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	九六 85
とうと <small>(東土)</small>	二 44	と	九七 85
とうと <small>(東土)</small>	四 30	と	九八 85
とうと <small>(東土)</small>	一 57	と	九九 85
とうと <small>(東土)</small>	四 88	と	一〇〇 85

度 <small>トク</small>	とも	二五〇	ながえ <small>(輾)</small>	ながし <small>(何某)</small>	二六〇
ととのふ <small>(調)</small>	ともがら <small>(徒・聲)</small>	四三九	なにかし	なにかし	四六〇
調けり	徒 <small>トモカラ</small>	二二	なかのさいのこほり <small>(那荷西郡)</small>	なにごと <small>(何事)</small>	二四三
とどむ <small>(留)</small>	ともから	二二	那荷西郡 <small>ナカノサイノホリ</small>	何事 <small>ナニト</small>	二四三
留たまふ	ともから	二二	ながら <small>(助詞)</small>	なふ <small>(積)</small>	二四三
ととむるに	とも <small>トモ</small>	四八	なから	なほ <small>(副詞)</small>	一三
ととむる	ともに <small>(連語)</small>	四八	ながをか <small>(長岡)</small>	なを	一六七
とにもかくにも <small>(副詞)</small>	ともに	一〇二	ながをか <small>(長岡)</small>	なほざねにふだう <small>(直實入道)</small>	二二五
左も右も	共 <small>トモニ</small>	四七	ながをか <small>(長岡)</small>	直實入道 <small>ナホサネニシラフ</small>	二二
との <small>(殿)</small>	とら <small>(寅)</small>	四八	なかりき	なみだ <small>(涙)</small>	二二
つきのわのとの	寅 <small>トウ</small>	三一	なし	涙 <small>ナミダ</small>	二二
殿 <small>ノ</small>	とりべの <small>(鳥部野)</small>	一〇	なし	涙 <small>ナミダ</small>	二二
とぶらふ <small>(訪)</small>	鳥部野 <small>トリベノ</small>	一七	なし	涙 <small>ナミダ</small>	二二
訪て <small>(下ラフ)</small>	とりての	一〇〇	なし	涙 <small>ナミダ</small>	二二
とほそ <small>(樞)</small>	取り	四二	無 <small>(止)</small>	なむがく <small>(南岳)</small>	一五
樞 <small>トボソ</small>	な	四二	なかれ	南岳 <small>ナムカク</small>	一五
とほる <small>(過)</small>	な	四二	なす <small>(成)</small>	なむほく <small>(南北)</small>	一三
過 <small>トワリ</small>	ないだい <small>(内題)</small>	二八	なす	南北 <small>ナムホク</small>	一三
とも <small>(接統助詞)</small>	内題 <small>ナイダイ</small>	二八	なす	なもあみだぶち <small>(南無阿弥)</small>	一三
とも <small>(接統助詞)</small>	なか <small>(中)</small>	四三	なにか <small>(副詞)</small>	陀佛 <small>ナモアミダブチ</small>	一三
ども <small>(接尾語)</small>	なか	四三	なにか	南無阿弥陀佛 <small>ナムアミダブチ</small>	一三
	なか	四三	なに <small>(何)</small>	ならひ <small>(慣)</small>	四三
	なか	四三	何 <small>ナニ</small>	ならび <small>(副詞)</small>	四三

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 侍りし 二九七

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 侍るへしと 二七四

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 侍る 二八一

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 侍ると 四四〇

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 侍るに 四三九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はや(早) 四三九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はや 四三九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 春(春) 一一九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 春 一一九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はるかなり(遥) 四三二

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はるかに 五九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はん(反) 四一五左

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はんいん(晩陰) 四三九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 晩陰 四三九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はんえんせうなごん(筈宴少納言) 四三九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 筈宴少納言 一四

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はんじやう(繁昌) 一五〇

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 繁昌 一五〇

は 是くらん(博覧) ↓しむちは はんず(判) 四七九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 判し 四七九

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ひ(日) 二九一五

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 日 二九一五

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ひき(悲喜) 二二四

は 是くらん(博覧) ↓しむちは 悲喜 二二四

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ひく(引) 二二四

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ひかれて 二二四

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ひぐれ(日暮) 四三二左

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ヒクレ 四三二左

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ひげ(鬚) 一三左

は 是くらん(博覧) ↓しむちは ヒゲ 一三左

は 《助詞》

は 一 二 五八 六〇 六四 二 二 三 四二

は 五八 八二 八九 九二 九九 一〇二 一〇七 一〇七 一〇七 四

は 一一 七三 五八

は 一 三九 二 一七 三 一二

は 四七六

は 《助詞》

は 一 四三 六〇 六六 二 九一 一〇三 四 六五

は 六六 五九

は 三 四

は いしよ(配所)

は いしよ(配所) 一 六四 六五 三 一四 一五

は いしよ(配所) 三 一

ひち(筆) ↓ ひち	ひとへに《副詞》	ひろく	ふがふす(符合)
ひちとくわうじやう(必得往生)	ひとへに	ひろふ(拾)	符合せりと
必得往生 <small>ヒトトクワウジヤウ</small>	偏に	拾 <small>ヒロフ</small>	かくむ(倉)
ひと(人)	偏	拾(止)	ふくめり
人	ひとのう(丁卯)	ひろむ(広)	ふささき(房前)
人	丁卯 <small>ヒトノウ</small>	ひろめたまひしに	房前 <small>フササキ</small>
人	ひぶちこむげん(彼佛今現)	ひろめたまふに	ふし(武士)
人	彼佛今現 <small>ヒフチコムゲン</small>	ひろむるに	武士
ヒト	ひべう(紕繆)	びんぼつ(鬢髮)	ふしぎ(不思議)
ヒト	紕繆	鬢髮 <small>ビンボツ</small>	不思議
ひとしからんとも	ひほむ(被犯)	ふ	ふじはらうじ(藤原氏)
ひとしと	被犯 <small>ヒホム</small>		藤原氏 <small>フヂハラウジ</small>
ひとしかるへきと	ひむがし(東)		ふしやう(浮生)
ひとしくす(等)	ヒムカシ		浮生 <small>フシヤウ</small>
ひとしくして	東 <small>ヒムカシ</small>	ふ(曆・經)	ふしゆしやうかく(不取正覺)
ひとたび(一度)	東	曆 <small>フ</small>	不取正覺 <small>フシユシヤウカク</small>
一たび	ひむがしやま(東山)	經 <small>フ</small>	ふじぬのもとひこ(藤井元彦)
ひとつ(一)	東山 <small>ヒムガシヤマ</small>	ぶいむ(無音)	藤井元彦 <small>フヂノモトヒコ</small>
ひとつ	びやくれんぐゑ(白蓮花)	無音	藤井元彦
ひとつ	白蓮花 <small>ヒヤクレンクヱ</small>	ふかし《形容詞》	ふじぬのよしざね(藤井善信)
ひとつ	ひらく(披・發)	ふかく	藤井善信 <small>フヂノヨシザネ</small>
ひとひと(人人)	披 <small>ヒライ</small>	深し	ふす(臥)
人々	發 <small>ヒラフ</small>	ふかきに	臥したまひて
人々	發へかりし	ふかき	ふぞくす(附囑)
人々	ひろし《形容詞》		

附嘱し 四七六
 附嘱シ 四七八
 附嘱す 四七八
 ふたごころ (二) 四六一
 二フタゴコロ 四六一
 ぶち (佛) 二一〇二
 佛フチ 二一〇二
 ぶちおん (佛恩) 五三
 佛恩フチオム 五三
 ぶちかく (佛閑) 五一九
 佛閑フチカク 五一九
 ぶちけう (佛教) 一五二
 佛教フチケウ 一五二
 ぶちじよう (佛乘) 一六一
 佛乘フチジョウ 一六一
 ぶちほふ (佛法) 一七八
 佛法フチホフ 一七八
 ぶちみやう (佛名) ↓いちぶ 一四四
 ちみやう 一四四
 ふかう (扶風) 四五四
 扶(平)風(平)フ(平)フ(平) 四五四
 ふむ (陸) 四四七

踏 四九〇
 ふもと (麓) 五一〇
 麓フモト 五一〇
 冬 五二七
 冬フユ 五二七
 ふよく (馮翊) 四五四
 馮(平)翊(入)フ(平)ヨク(入) 四五四
 馮翊 四五四
 ふれい (不例) 五〇八
 不例フレイ 五〇八
 ぶん (文) 一三八
 文ブン 一三八
 ぶんえい (文永) 一五七
 文永ブンエイ 一五七
 ぶんぼ (墳墓) 一五八
 墳墓ブンボ 一五八

へいか (陛下) 三二〇
 陛下ヘイカ 三二〇
 へいたらう (平太郎) 四六〇
 平太郎ヘイタラウ 四六〇
 へうえい (苗裔) 一三
 苗裔ヘウエイ 一三
 へうじ (表事) 五一
 表事ヘウジ 五一
 へうだう (廟堂) 五二七
 廟堂ヘウダウ 五二七
 べし《助動詞》
 へからす 二六五
 へからさるそや 二八四
 へかりし 一八
 へしと 一四七
 可シ 四四
 へしとも 二五三
 へしとて 二五八
 へきなり 二四二
 へきと 二八八
 へき 二八九
 へんしう (辺州) 四四三

邊州 三三
 へんひ (辺鄙) 一六六
 邊鄙ヘンビ 一六六
 へんふす (遍布) 五二三
 遍布してヘンフス 五二三
 ほ
 ほうこ (蓬戸) 四三
 蓬戸ホウコ 四三
 ほうしや (報謝) 五二五
 報謝ホウシヤ 五二五
 ほうでん (寶典) 二二〇
 寶典ホウデン 二二〇
 ほうど (報土) 二四六
 報土ホウド 二四六
 ほうびす (保美) 二二〇
 保美ホウビス 二二〇
 ほか (外) ↓このほか 一〇
 ほか 一〇
 ぼさち (菩薩) ↓ぐぜぼさ 一〇
 ち・にぼさち 一〇
 ぼじ (嘔時)

ましくけり	四三	万里小路 <small>マンリコウジ</small>	五九
マシマス	二二八左二八左	まどふ <small>(迷)</small>	三六
まします	五二	迷 <small>マドフ</small>	三六
ますます <small>《副詞》</small>	五二	まのあたり <small>(親)</small>	二二七
ますく		親 <small>マンアツリ</small>	二二七
また <small>《接続詞》</small>		まへ <small>(前)</small> ↓ おむまへ	
又	一六八二一〇一	まぼろし <small>(幻)</small>	四二
又		まほろし <small>(幻)</small>	四二
又	一六三五三二三三	まもる <small>(守)</small>	二二八
また	一六四四二四	守 <small>(体)</small>	二二八
又	一一五四七	まよひやし <small>《形容詞》</small>	二二
またし <small>《形容詞》</small>		まよひやすきに	二二
またく	二九四	まれ <small>(希)</small>	二二
まちほふ <small>(未法)</small>		まれ	二二
未法 <small>マホフ</small>	四六五七	まれうど <small>(客人)</small>	四三左
まちりう <small>(未流)</small>		マレウト	四三左
未流 <small>マウリウ</small>	五二	まゐる <small>(參)</small>	二一〇七
まづ <small>《副詞》</small>		まいらむ	二一〇七
先 <small>マツ</small>	二二九	まいらせたまはし	二二
まつりごと <small>(政)</small>		参たまひき	二二
政 <small>マツリゴト</small>	二二八	参 <small>マツリ</small>	二二
マツリコト	四八八左	参 <small>マツリ</small>	二二
までのこうち <small>(万里小路)</small>		参たるに	四六四

専修寺蔵「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

まいるへしと	二六六	みつ <small>(満)</small>	
まんしや <small>(万差)</small>		満たまふ	五八
万差 <small>マンシヤ</small>	四六四	みづのえいぬ <small>(壬戌)</small>	五一
まんぞくす <small>(満足)</small>		みづのえさる <small>(壬申)</small>	五一
満足 <small>マンゾク</small>	四六	壬申	五一
み		みな <small>(皆)</small>	五一
みういちにん <small>(未有一人)</small>	四六八	みな	二五九七三
未有一人 <small>ミウイチニン</small>		皆 <small>ミナ</small>	四六九
みぎ <small>(右)</small>	三二八	みなみ <small>(南)</small>	五九
右 <small>ミギ</small>	三二八	南 <small>ミナミ</small>	五九
みぎり <small>(砌)</small>	五三一	みやう <small>(名)</small>	二一六
砌 <small>ミギリ</small>	二二九	みやうじ <small>(名字)</small>	二
みこ <small>(命)</small>	二二九	名字 <small>ミヤウジ</small>	二
命 <small>ミコ</small>	二二九	みやうにち <small>(明日)</small>	二
みだう <small>(御堂)</small>	一四二	明日 <small>ミヤウニチ</small>	二
御堂 <small>ミダウ</small>	一四二	みやうほふばう <small>(明法房)</small>	四二八
みだりがはし <small>《形容詞》</small>		明法房 <small>ミヤウホフバウ</small>	四二八
狼 <small>ミダリカシ</small>	三二	みやこ <small>(都)</small>	四二八
みち <small>(路)</small>	四三〇四三	ミヤコ	四二八
路 <small>ミチ</small>	五八五九	みゆ <small>(見)</small>	一四
		みゆ	一四

